

为 了 明 天

ウエイ ラ ミン テイエン

明日のために

子どもたちに希望を 人々に友情を

特定非営利活動法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

<http://www.sokeirei.org>

もうすぐ 貴州省の山村に安心を乗せた救急車が走り、 河北省の村の中学には安全な「机と椅子」が配備されます。

— ご支援は、友好の種となり、形となって、日本と中国の民間に信頼を着実に育んでいます —

皆様の多大なご支援のおかげで、本年度のプロジェクト基金が整いました事を感謝申し上げます。

教育支援：奨学金給付基金 188万円、「机と椅子」配備支援金 54万円、図書セット寄贈 16万円、新華字典寄贈 12万円。

母子保健支援：救急車配備支援金150万円 等々

これらの支援基金は、日中両宋慶齡基金会及び現地関係者の間で取り交わした協定書に沿って、段階を踏んで拠出いたします。

ここで、事例を以って、プロジェクト実施のプロセスをご報告したいと思います。

■ 本年の重点プロジェクトの一つである救急車配備支援は、2003年の貴州省凱里市三棵樹鎮衛生院における母子保健センター設立支援及びその後の「妊婦の安全な出産を確保する」母子保

健支援の延長上にあります。

同衛生院は、皆様のご支援でJCCが寄贈した医療機器・設備を適切に維持管理し、研修と自助努力で、村民の健康と衛生の向上に寄与し、信頼される衛生院に発展しています。産婦人科の充実に加え、小児科やその他の病気の治療にも実績を上げ、三棵樹鎮(人口 53,159人)だけでなく、周辺地域の医療にも大きな貢献をするようになりました。劉延東中央統戦部長の視察もありました。という凱里市三棵樹鎮人民政府の報告が昨年10月に届いています。

この報告の中で、同衛生院が三棵樹鎮を越えたはるかに広大な地域の母子保健と医療衛生事業を担う事が求められるようになったので、衛生院の増築、設備の増設をしなければならない。また、交通手段が未発達なので、どうしても救急車を配備したいので、ご支援いただけないか、という要望が寄せられていました。JCCは、3度の視察報告を踏まえ、必要不可欠で、支援可能なものとして救急車配備支援を選択しました。まだその段階ではない、唐突だ、との意見もありましたので、念のため、現地にその必要性について再度の説明を求め、他方、上海の中国福利会国際和平婦幼保健院の医療活動専門家の意見も求め、その意義と有効性を確認しました。



車体に「宋慶齡基金会日中共同項目委員会寄贈」と表示されている

■7月7日「貴州省凱里市三棵樹鎮衛生院に対する救急車配備支援に関わる協定書」が当会・上海宋慶齡基金會・貴州省凱里市衛生局の三者間で成立し、前後して救急車の細部に亘る仕様と見積り〔上海都盛汽車銷售有限公司〕を確認しました。救急車の仕様については、予め東京消防庁八王子支部で見学させて頂きました。

救急車の製作と整備は、上海宋慶齡基金會が中国福利会國際和平婦幼保健院の専門家の指導

の下に上海で行い、完成後、貴州省凱里市三棵樹鎮衛生院に引き渡すことになっています。当会は、1年後に現地より、維持管理・活動状況についての報告を受け、現地視察を行なう予定です。

こうしたプロジェクト実施の方法について支援者の皆様のご意見、ご助言をいただければ幸甚に思います。

’06年度の図書セット及び「机と椅子」の寄贈先決まる!

このほど、今年度の図書セット寄贈先小学校及び「机と椅子」配備支援校が下記の通り決まりました。これにともない、河北省易県の学校関係者から「日本の友人の教育事業に対する配慮と支援に心から感謝します」とのメッセージが寄せられ、同時に、本プロジェクト実施先の現状が伝えられました。

図書セット寄贈先

(1セット 8万円相当/書棚付き)

- 1) 易県小学：易県小学は、易県城内にある易県最大の小学校。在校生3,300余名、49クラス。教学水準の高い優秀校。
- 2) 夏庄小学：夏庄小学は、県城の西10キロに位置し、梁格庄鎮中心校の管轄下に属し、在校生160人の完全小学。教学水準の高い優秀校。



「机と椅子」配備支援校

- 1) 白馬中学：易県県城の北10キロに位置し、旧白馬中学に白羊中学・流井中学を合併して新たに建設された初級中学。在校生は600人。教具設備、特に生徒用「机と椅子」が不足している。該校は各種の手段により、200人分ほどを解決したが、まだ400人分不足している。—今回当会は200人分を寄贈する。
- 2) 龍華中学：龍華中学は、易県県城の西30キロに位置し、在校生は1,200人、18クラスの易県西部山区の比較的大きな初級中学。近年この中学は、教育内容が優れ、教学水準が高いことで常に注目され、期待されている。しかし、古い学校なので、教具設備が不十分で、特に生徒用「机と椅子」は破損がひどいが、資金不足で補充できないままである—今回当会は、200人分を寄贈する。

国際シンポジウムを開催

— 寧夏より女性教師が参加 — 新保 敦子

宋慶齡日本基金会(1984~2000)、さらにその後身である宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会(JCCと略称/2000~)は、1993年以降10年以上にわたり寧夏回族自治区の黄土高原において、児童への教育支援プロジェクト(寧夏プロジェクト)を実施してきました。この地域にはイスラームを信仰する少数民族である回族が多数居住していますが、貧困のため女兒を中心として、学校に行けない多くの児童がいました。こうした問題を解決するため、寧夏プロジェクトでは貧困児童への奨学金の支給、学校建設、回族女性教員の養成・研修などの事業を行ってきました。

こうした寧夏プロジェクトは、皆様方、お一人お一人からの暖かいご厚意によって支えられ、2005年、無事にひとつの区切りを迎えることができました。その事に対して、まず心から御礼申し上げます。寧夏プロジェクトは現地の教育当局からも高く評価されておりますが、皆様方のお力が無ければこのような成果をあげることは決してできなかつたと痛感しております。

本シンポジウムは、寧夏プロジェクトの総括であるとともに、激動する世界の中で、回族女性の社会的地位をどのようにすれば高めることができるのかを多角的に検討することを意図して、開催されるものです。

また、現在、様々な局面で注目を集めているイスラーム世界ですが、そこに生きるムスリム女性たちに目を向けると共に、あわせて広く少数民族女性の存在をも視野に入れつつ考察してみたいと考えています。

パネリストとして、寧夏プロジェクトのカウンターパートナーである中国宋慶齡基金会からプロジェクトの担当責任者である李希奎部長、あるいは寧夏教育庁長として寧夏プロジェクトを強力に推進してきた蔡国英氏の他に、

グローバル化の下での少数民族女性のエンパワーメント

11月5日(日) 9:30~17:30

[パネルディスカッション]

第1部 ムスリム女性のエンパワーメント

第2部 中国寧夏回族自治区における教育支援

11月6日(月) 10:00~12:00 [分科会]

会場：早稲田大学国際会議場

参加費：シンポジウム：1000円、懇親会：5000円

主催：早稲田大学寧夏シンポジウム実行委員会、NPO法人 宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会 (JCC)

●参加申し込み・問い合わせ先

早稲田大学教育学部 (新保 敦子 宛)

e-mail: akoba@waseda.jp FAX: 03-5273-4435

準備の都合上、10月15日(日)までにご連絡下さい。

ムスリム女性に関する世界的な研究者を国内外から集めて、シンポジウムを開催します。

また日本側の支援によって師範学校を卒業し、農村の現場で教師として活躍する回族の女性教員も、寧夏からお招きします。大変貴重な機会ですので、是非とも奮ってご参加下さい。皆様方に来て頂ければ、女性教員たちも勇気づけられることと思います。

多数のご来場を心からお待ちしております。これまで10年以上にわたる交流の蓄積の上に結ばれてきた寧夏と日本の人々との絆が、よりたく確かなものになることを願ってやみません。



寧夏・女性教師の研修会

第8回
JCC
中国講座

中国における日本観 愛国心と日本観の相克

2006.5.20
八王子労政会館

講師：王 敏さん 法政大学国際日本学研究センター教授

中国は人口が多く、しかも多階層なので日本観は一様ではないが、不特定多数の日本観を述べたい。私は幼児期に祖父母から、日本は小さい美しい国、神が住み、大昔中国の皇帝が不老不死の薬を求めに少年少女を送ったという話を聞いた。成人してから、それが司馬遷の「史記」に書かれていたことを知った。

遣随使・遣唐使の時代を経て宋代にも、渡来僧により両国の交流はあったが、その後長く途絶えた。—西洋主導による開国・近代化のスタートは日本も中国もよく似ていたが、それを学ぶ姿勢は違っていた。すなわち、1840年のアヘン戦争が2年かかって終結後、中国は辛亥革命（1911）まで70年を経過した。しかし日本は、1853年のペリー来航から15年で明治維新となっている。薩英戦争（1863）も、下関戦争（1864）も僅か3・4ヶ月で収めた。日本は曆や洋服をすぐに取り入れたが、中国は伝統を守り、抵抗と受容の繰り返しであった。曾国藩・李鴻章らの「洋務運動」や「中体西用論」。梁啓超の「変法論」や新聞の創刊。康有為は「日本変政考」を光緒帝に進呈し、改革をめざしたが、保守的な西太后に阻止された。義和団事件は2年間も続く烈しい抵抗であった。

遡って1862年、ロンドンで、福沢諭吉と唐学墳は出会い、誠意をもってアジアを語りあった。しかし23年後、福沢諭吉は「時事新報」に「脱亜論」を書いた。その後「脱亜論」は「興亜論」となり、やがて中国侵略に進んだ。

日本は西洋に目を向け、科学を重んじたが、中国は歴史にこだわり、両国の道は分かれたのであった。日清戦争以後、梁啓超・魯迅・孫文・陳天華等々、多くの中国人が（軍人も）日本で学んだ。日本は留学生を受け入れていたが、一方「留学生取締り規則」に対



する留学生の反発もあった。明治の頃は日本人の愛国心—大和魂を讃え、これを中国にもと考えたかもしれない。しかし大和魂の深層（痛みに堪える精神や自然への愛など）は中国人には分らない。中国人の愛国心の中身と、日本人のそれとは異なる。価値観の違い、文化の違いなのである。中国人の心に根ざす「愛国心」（「歴史観」「徳の教え」「中華意識」「受容と抵抗」等）は、今後も永く続く日本人や日本文化に対する相克であろうと思われる。お互いの異文化に留意しながら、文化交流を重ねることによって、日中両国民の友好を進めたいと願う。（三浦・記）

第9回 JCC中国講座

中日関係と中国の歴史教科書

講師：王 智新さん（宮崎公立大学教授）

日時：2006年10月7日（土） 14:00～16:00

場所：八王子労政会館 第4会議室 [参加費：500円]

（京王八王子駅7分・JR八王子駅10分 TEL042-645-7451）

主催：NPO法人宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会
撫順の奇跡を受け継ぐ会

お問合せ：TEL&FAX 042-646-4210

追悼 柳田節子さん

柳田節子さんは、骨折で入院、リハビリに努力されている時に肺炎に罹り、本年7月9日急逝されました。享年85歳でした。

ご冥福をお祈り申し上げ、20有余年に亘る宋慶齡基金会の事業に対するご支持とご支援、特に最近6年間の女子中学生奨学金(河北省易県における柳田奨学金)に、感謝いたします。

8月8日、当会は、故柳田節子さんの遺言執行者より、故人の当会に対する遺贈(300万円)についての連絡を受けました。当会は、故人の御遺志を大切に、これを拝受し、記念プロジェクトを行なう所存です。

なお、9月9日に学習院大学にて「柳田節子先生お別れ会」がとり行なわれました。



柳田節子先生を偲ぶ

柳田節子先生の父君柳田謙十郎先生は西田幾太郎門下の哲学者で台北帝国大学で教鞭をとっておられたが、第二次大戦後は労働者教育や平和運動・日中友好運動に尽力された。令兄陽一氏は京都帝国大学で東洋史学を専攻されていたが、1942年2月に陸軍に入営、10月に死去され、遺稿は『きけわだつみのこえ』に収録されている。

柳田節子先生は台北で高等女学校を卒業され、その後、旧制の東京大学東洋史学科をご卒業、東京大学助手・宇都宮大学教授・学習院大学教授を歴任された。宋代(10—13世紀)を中心とする中国社会経済史研究をご専門とされ、『宋元社会経済史研究』等の立派な研究業績があり、また日本における中国女性史研究の指導者であられた。虐げられた印象ばかり強調されてきた中国の女性にもしたたかな生き方をした人々があり、官憲も一部はそれらの現象を容認せざるを得なかったことを書かれたり、話されたりしたのが印象に残っている。

私が柳田先生とお近づきとなったのは、

父君や令兄のことを知ってからのことであったが、帝国大学教授のお嬢様という当方の予断と偏見に反して、いつも明るく、気さくに、時には「お茶目」なことをおっしゃってお相手をして下さった。先生が東洋史学を専攻されたのは令兄の志を継いだことであること、京大の宮崎市定教授が令兄のレポートを永く保管されていたこと、先生ご自身も京大進学を考えていたが、戦後の住宅難・食糧難等の事情で東大へ進まれたこと、猫が大好きであること、などの話が印象に残っている。

柳田先生がわだつみ会の精神の継承・発展を希求されたこと、中国の子供の未来のための援助をされたことは、令兄のような悲惨な死をくりかえさないという平和への決意に基き、令兄・父君の中国への志を継承・発展させたものというべきである。本会のために、ご生前に多額の遺贈を準備されたことは、柳田先生の優しい志の強固さと準備の周到さを物語るもので、ただただ、頭が下がる思いがする。ご遺志を有効・適切・確実に履行することが、真に追悼の意を示すことになる。 久保田 文次

2006年

- 5月 1日 中国宋慶齡基金会よりEMS：05年度プロジェクト総額領収証
- 5月18日 国際交流基金より助成決定通知：国際シンポジウム「グローバリゼーションの下での少数民族女性のエンパワーメント」に 1,078,300円
- 5月20日 第8回 JCC中国講座：王敏氏「中国における日本観、愛国心との相克」
- 5月27日 第36回事務局会議：11月5・6日 国際シンポジウムほか
- 6月 5日 上海宋慶齡基金会よりFAX：救急車配備支援協定書修正案
- 6月9日 中国宋慶齡基金会より EMS：05年度 寧夏回族自治区西吉和平中学女子生徒奨学金領収証及び感謝状／LC関係プロジェクトの打合せ
- 6月18日 <故 須藤 雅さんを偲ぶ会>：偲ぶ会主催
- 6月24日 第37回事務局会議：06年度プロジェクトの実施について
- 7月 5日 上海宋慶齡基金会よりEMS：救急車配備支援協定書（日・中文）及び見積書
- 7月 7日 上海宋慶齡基金会にFAX：救急車配備支援協定書成立及び賞郎小学校新校舎使用如何について
- 7月 9日 柳田奨学金開設の柳田節子さん逝去
- 7月18日 中国宋慶齡基金会に11月国際シンポジウムへの招聘状発送
- 7月22日 第38回事務局会議：11月国際シンポジウム準備ほか
- 7月25日 上海宋慶齡基金会に送金：貴州省凱里市三棵樹鎮衛生院に対する救急車配備支援基金150万円

- 8月 日 中国宋慶齡基金会に送金：54万円河北省易県の中学に対する「机と椅子」支援／400人分
- 8月 日 代々木LC奨学金（女性教師養成／寧夏回族自治区）新規協定書を中国宋慶齡基金会に送付
- 8月 8日 故柳田節子さん遺贈の通知を受ける
- 8月18日 『須藤雅先生遺稿集』（仮）出版準備会／幼児教育研究交流関係
- 8月25日 11月国際シンポジウム準備会
- 8月28日 創価大学生奨学金（就学支援／貴州省）新規協定書を上海宋慶齡基金会に送付
- 9月 2日 第39回事務局会議：10月7日理事会及び中国講座準備
- 9月 9日 「柳田節子先生お別れ会」に参加（学習院大学小講堂）
- 9月23日 “為了明天” 第12号発行



研修を受ける寧夏的女性教師

編集
後記

格別の炎暑と思う間に、早くも秋雨の季節となった。皆様お障りなくお過ごしでしょうか。9月9日「柳田節子先生のお別れ会」に、当会から久保田、井上、三浦が出席。ご遺徳を偲んだ。春以来、須藤副代表、小坂理事の逝去に続く淋しい思いだが、ご意志を継いで着実に友好の実を結びたい。救急車、教育支援、また早大と共催の「シンポジウム」等忙しいが、励まし合って元気に仕事をしている。皆様、何卒おすこやかに!! (三浦)

「為了明天」No.12

2006年9月23日発行

題字：周 肖
編集：三浦・井上

発行者：NPO法人宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会
久保田博子

〒192-0904 東京都八王子市市安町1-43-6-206
TEL/FAX 042-646-4210

郵便振替：00170-2-152423
三菱東京UFJ銀行八王子支店（普通）4731623